

「神に喜ばれる一年を祈り求め」 I テサロニケ 5：1－18

- ：2。主の再臨の日がいつ来ても良いように、一日一日を主と共に歩めますように。私達が、主のみもとに、いつ天に召されても良いように、一日一日を大切に主と共に歩めますように。
- ：3。突如として滅びが襲いかかる事がないように、家族、知人、友人、人々の為に祈り、与えられる機会を生かして、救い主を伝える一年となりますように。
- ：4。私達が、罪の暗やみの中に留まらないように、日々、自分の罪を悔い改めて歩めますように。そうしているなら、主の再臨の日が、盗人の様に私達を襲う事はない。
- ：5。私達は、神の恵みで救われ、主の光をいただいて、心の目が開かれ、神の恵みを理解できるようにされた。罪の暗やみから救い出され、光の子供、昼の子供とされた。日々、主の光、御言葉の光をいただいて、人々を真の光、希望の光である主に導く、世の光（ライトハウス）の使命を果たせますように。
- ：6。眠っていないで（主からの使命を忘れて霊的に無感覚にならないで）、目を覚まして（主の再臨をいつも覚えている油断のない生き方、「目覚め続けよう」との決断を含む意識的な生き方）、慎み深く（原語：酔っていない、酒を飲まないの意。御霊の実である自制により均衡の取れた生活）歩むことが出来ますように。
- ：7。眠る者は夜眠り、酔う者は夜（夜のわざ＝遊興、淫乱、好色、争い、ねたみ）酔うからです。
- ：8。しかし、私達は、昼の者（主に救われ、光の子供とされた者）なので、信仰（主を信じ、どんな試練の時でも全能の神を信頼する）と愛（自分には愛がないが、神からいただく愛、御霊の実である愛により神と隣人を愛する愛）を胸当てとして着け、救いの望み（主の再臨による救いの完成の確かな希望）をかぶるとしてかぶって、御聖霊が下さる自制をもって歩めますように。
- ：9。神は、私達が御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになった驚くべき恵みを忘れないで感謝しつつ歩めますように。
- ：10。主が私達を愛して、私達の為に死んで下さった大きな愛、恵みを感謝します。主の死の目的は、私達が、目覚めていても（地上で生きている）、眠っていても（死を迎えても）、主とともに生きる為です。私達は、地上でも主が共におられ、死んでも天国で主と共に永遠に愛され生きる事が出来る！何という幸い！
- ：11。ですから、私達は、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いながら、今年も歩めますように。
- ：12，13。教会で労苦し、主にあって教会を指導し、訓戒している人々を認めることが出来ますように。その努めの故に、愛をもって深い尊敬を払い、お互いの間に平和を保つ事が出来ますように。
- ：14。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容であることが出来ますように。
- ：15。悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善（相手に真に必要な事）を行うように努めることが出来ますように。
- ：16。「いつも喜んでいなさい」。迫害の中で苦難に直面しつつ生きるテサロニケ教会の人々への言葉。この御言葉は、悲しみの時、泣くことを否定している御言葉ではない。イエス様も泣かれた。「イエ

スは涙を流された」(ヨハネ 11 : 35)。「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた」(イザヤ 53 : 3)。主は、私達の悲しみ、涙を受け止めて下さる。病の辛さを深く理解して下さい。私達の人生は、楽しい時もあれば、試練の時もある。では、この御言葉の意味は？辛い試練の中でも、主の救いを、神に赦されている恵みを、神に愛されている恵みを、主が、どんな時にも共にいて下さる恵みを、御聖霊の内住を、神ご自身を喜んでいなさい。あらゆる環境に支配されない、キリストの恵みの事実に基づく喜び。

: 17。「絶えず祈りなさい」。この一年、喜びの時も、試練の時も、絶えず神と交わる祈りが出来ますように。喜びの時、すべての栄光を神に帰し、心から賛美し祈らせて下さい。辛い辛い試練の時、神の前に心を注ぎ出し、心から神に拠り頼ませて下さい。多くの人は、試練の中で神に近づき神を深く知る。

: 18。「すべてのことについて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」。迫害や試練、苦しみを含むすべての環境の中で、神の恵みを忘れず、神の恵みを一つ一つ数え、感謝しなさい。この1年、御聖霊の助けにより、この御言葉を実践できますように。苦しみ、辛い事が、魔法の様にすぐに消え去るわけではない。しかし、苦しみ、試練の中で、主の恵みを数えるなら、感謝が生まれる。試練と主の恵みは、共存している。恵みの中に試練があり、試練の中に恵みがある。私たちの身に、無意味に起こる出来事はない。私達の人知を越えた事ではあるが、すべてに神の御支配、神の主権、神の摂理、神の御計画がある。「雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません」マタイ 10 : 29。神は、すべてのこと(苦しみも)を働かせて益(私達が、苦しみを通して神を求め、主を信じ救われ、苦しみを通して訓練され主の愛と聖い姿に成長する)として下さる。ローマ 8 : 28。苦しみを通して学んだある著者の言葉、証し：「苦しんでいる時、私達は、それ以外の方法では決して知ることができなかつただろう事柄を主イエス・キリストについて学ぶ。過去を振り返ってみて、自分の不利に働いた事柄の故に感謝できよう。個人的に私は、自分の面前で扉がピシャリと閉ざされた数々の折について神に感謝している。その時は嬉しく思わなかったが、今は、ありがたく思っている。困難と悩みの中にある時にこそ人は、素晴らしい約束の栄光を悟り始める。人は、まず低くかがんでから初めて、最上の祝福のいくつかを受ける事ができる」。

この一年、色々な所を通される事だろう。しかし、どんな時にも、私達には、最高に素晴らしい主が、いつも共におられる恵みを覚えて歩みたい。試練の中でも、主の恵みと主ご自身を喜び、絶えず祈り神に拠り頼み、すべての事の中で神の恵みを数え感謝しつつ歩めますように。

そして最後に、神は、小さく、けちなお方ではなく、恵み豊かな方である事を覚えて祈りたい。

「主は、あなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべての者は」イザヤ 30 : 18